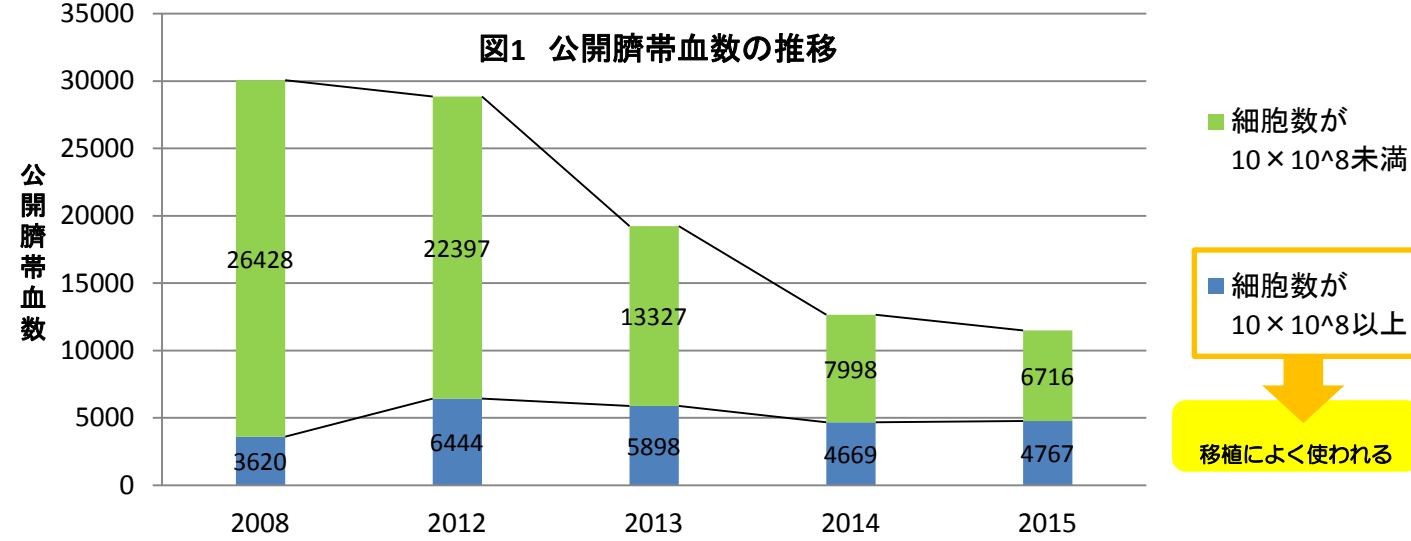


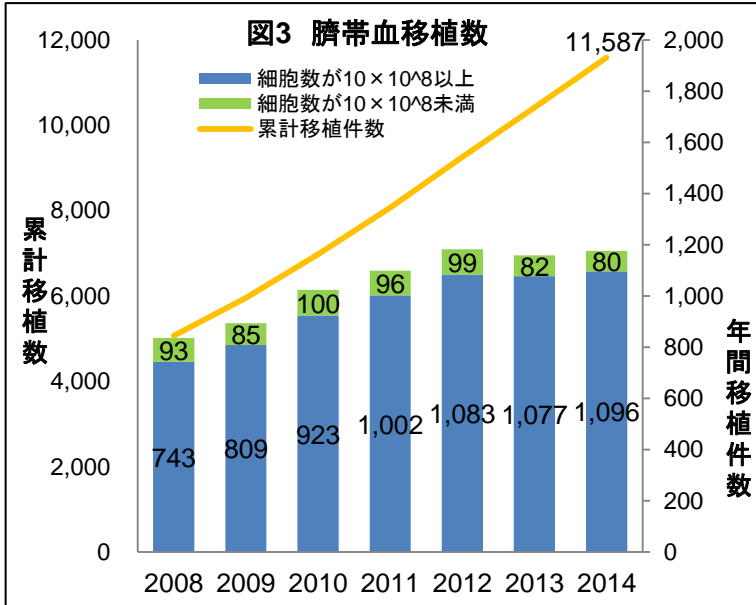
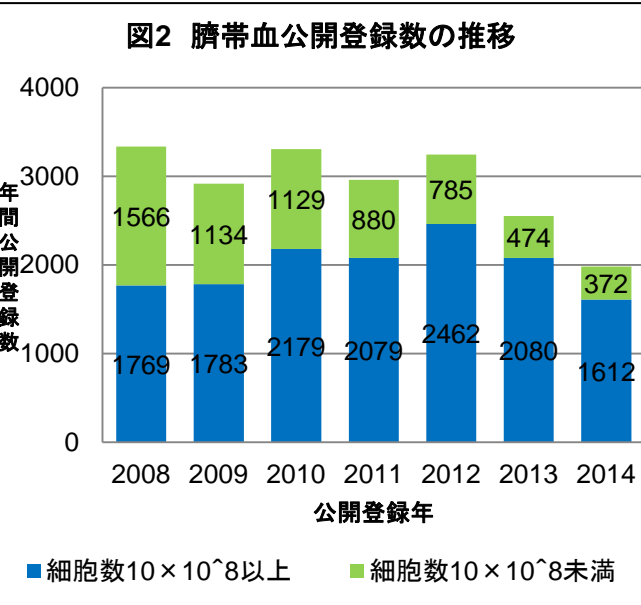
# 臍帯血公開登録数の推移について

国内の臍帯血移植件数が5,000例に到達した2008年当時と比較すると、全国のさい帯血バンク数は11カ所から6か所に、公開臍帯血数は約30,000本から約11,000本へと大きく減少している。

公開臍帯血数が減少した原因については、バンク数が減ったことに加え、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」（平成26年1月1日施行）を契機に、採取から10年以上が経過した臍帯血の公開を取り消したことで公開するまでの保存期間が9か月間に延長されたことが影響していると考えられる。



一方、移植によく使われる  $10 \times 10^8$  個以上の細胞数を持つ臍帯血の公開数はここ数年一定に保たれている（図1）。細胞数の多い臍帯血は公開されるとすぐ移植に使用されるため公開臍帯血数はなかなか増えないが、年間の臍帯血公開登録数の推移（図2）や年間の臍帯血移植数が2012年以降、1,200件程度で推移しており、公開数の減少による移植件数への影響は表れていないことから各バンクは移植に必要な細胞数の臍帯血を効率よく保存できていることがわかる。（図3）



しかし、移植成績の向上や高齢化に伴い、今後臍帯血移植の重要性は増していくことが予想されており、安全性が高く細胞数の多い臍帯血をより多く確保する取組みが不可欠となる。

そのためにさい帯血バンクは、多くのドナーさんにご協力頂けるよう働きかける一方で、引き続き採取技術・保存技術の向上に力を入れて取り組んでいく必要がある。